

2023年6月吉日

TBWA\HAKUHODO と専門家の有志が制作！

これからの出水期・関東大震災から100年を前に「防災アクションガイド」第12弾公開 SNSなどを使ったコミュニケーションを通じた新しい防災『つながる共助』を提案

TBWA\HAKUHODO（本社：東京都港区、代表取締役社長兼 CEO：今井明彦）と FUKKO DESIGN（本社：東京都渋谷区、代表理事：河瀬大作）は、新しい防災のスタイルとして SNS などを使った共助にフォーカスした『SNS でつながる 防災アクションガイドー災害時の助け合い』を発表しました。どなたでも無料でダウンロードして活用していただくことができます。

つながる共助
災害時の助け合い
災害時にはみんなで助け合おう

SNSでつながる 防災アクションガイド

地域や友人だけでなく、多くの人と繋がって助け合うことを、私たちは「つながる共助」と呼んでいます。SNSやコミュニケーションツールでの繋がりを有効活用して、助け合いましょう。

つながる共助

地域・友人関係が中心だった共助。近年はSNSなどを通じて様々な人と繋がって助け合う「つながる共助」が有効です。「つながる」ことで復旧や支援を相互に進めましょう。

情報の共有 復旧作業 モノやお金の支援

被災した人 支援する人

被 **支**

つながる共助では被災した人と支援する人それぞれの目録で有効な内容にマークをつけています。

SNSやLINEなどを有効活用しよう

SNSやLINEなどのコミュニケーションツールは多くの人と気軽に繋がれる一方でプライバシーの心配もあります。それぞれの特徴を踏まえて、自分に合った方法を選びましょう

つながり	方法	長所	短所
信頼できる人	LINE、Facebookなどでの限定グループ	プライバシーが守られる	支援者が広がらない
うすい知りあい	LINE、Facebookなどでのグループや公開範囲を友人にした投稿	プライバシーを守りやすい	それほど支援者が広がらない
知らない人	Twitter、Instagram、FacebookなどSNSでの公開投稿	投稿が拡散されることで支援者が広がりやすい	不特定多数が見るためプライバシーに注意が必要

プライバシーを守るには

広く支援を受けるには情報を拡散する必要がありますが、一方でトラブルの原因になる可能性も。公開する情報を十分に検討してから発信しましょう。

個人情報やプライバシーのチェックリスト

- 氏名・住所・電話番号などを含む個人情報
- 投稿や写真での位置情報の設定
- 自分や家族や被災者のプライバシー（家族構成・顔写真など）
- SNSでのDMの受付範囲の設定

© FUKKO DESIGN JVOAD 協力：荒木健太郎（雲研究者）、佐々木晶二（元内閣府防災官事務官）

TBWA\HAKUHODO と FUKKO DESIGN は、身の回りで起こりうる様々な災害リスクによる被害を減らすため、自分でもできる災害対策をわかりやすくまとめた「防災アクションガイド」シリーズを2020年から制作しています。これまでに「大雨・台風」「天気急変」「冬の荒天」「地震・津波」「火山・降灰」などの自然災害への備えに加え、「在宅避難」「生活再建」「女性向け」など、ニーズに合わせて様々な切り口でガイドを制作・公開してきました。

シリーズの第12弾となる今回は、SNS などを使った新しい防災のスタイルとして「つながる共助」をテーマに制作しました。これから迎える出水期に起こりやすい大雨をはじめ自然災害が多発する現在、災害発生時には自助、公助に続き、身の回りで助け合う「共助」が必要とされています。しかし、近隣関係が希薄化する中では、住んでいる地域を中

心とした共助には限界があります。そのような中で、SNS や様々な IT サービスなどを通じて、住んでいる地域に限定されない様々な人たちとコミュニケーションでつながって助け合うケースが増えています。そこで、SNS など様々なコミュニケーションツールを使って助け合う新しい防災のスタイルを「つながる共助」と表現し、備えやいざという時に身を守ることにつながるアクションをまとめました。

「つながる共助」のアクションは、自然災害だけでなく、火災で被災された場合など身に危険が迫った様々な場面で実際に活用されたものを参考にしました。災害時に起こりがちの、モノやお金の調達や復旧作業のための人手募集など、いざ何かあった時に助け合うための行動を紹介しています。

なお、本ガイドは内閣府が取りまとめた「令和 5 年版防災白書」にも掲載されております。政府や自治体、民間企業をはじめとするさまざまな組織とも連携しながら、「つながる共助」を推進していきます。

今回からシリーズの名称を『コロナ禍でもすぐできる！防災アクションガイド』から『SNS でつながる 防災アクションガイド』に変更いたします。新型コロナウイルス感染症が蔓延した 2020 年 4 月に、コロナ禍での災害対策を発信していきたいと考え、有志のメンバーでプロジェクトがスタートしました。今年 5 月より新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行しコロナ禍での災害対策は一旦区切りをつけますが、防災は社会における大きな課題であることは変わりません。関東大震災からも 100 年を迎える中、SNS などを使った新しい防災を提案することで、引き続きクリエイティブティの力で防災・減災への取り組みを呼びかけていきます。ご家庭や地域の新たな防災のスタイルを考えるツールとしてぜひ活用ください。

『SNS でつながる 防災アクションガイドー災害時の助け合い』

URL: https://www.tbwahakuhodo.co.jp/uploads/2023/05/bousai_actionguide_kyojo.pdf

<詳細>

<災害時の助け合い>

「災害時にはみんなで助け合おう」

SNS を使った新しい防災のあり方「つながる共助」と、SNS などの使い方を説明しています。

「仲間とつながって支え合おう」

仲間とのつながり方や、モノを支援する／される時の方法を紹介しています。

「復旧作業とお金の助け合い」

復旧作業の仕方や、お金の支援をする／される方法を解説しています。

「困っている人とつながろう」

困っている人のマークや、障害に対応する施設のマークなどをまとめています。

災害時の助け合い

災害時にはみんなで助け合おう

SNSでつながる
防災アクション
ガイド

つながる共助

SNSやLINEなどを有効活用しよう 被

SNSやLINEなどのコミュニケーションツールは多くの人と気軽に繋がれる一方でプライバシーの心配もあります。それぞれの特徴を踏まえて、自分に合った方法を選びましょう

つながり	方法	長所	短所
信頼できる人	LINE, Facebookなどでの限定グループ	プライバシーが守られる	支援者が広がらない
うすい知りあい	LINE, Facebookなどでのグループや公開範囲を友人にした投稿	プライバシーを守りやすい	それほど支援者が広がらない
知らない人	Twitter, Instagram, FacebookなどSNSでの公開投稿	投稿が拡散されることで支援者が広がりやすい	不特定多数が見るためプライバシーに注意が必要

プライバシーを守るには

広く支援を受けるには情報を拡散する必要がありますが、一方でトラブルの原因になる可能性も。公開する情報を十分に検討してから発信しましょう。

個人情報やプライバシーのチェックリスト

- 氏名・住所・電話番号などを含む個人情報
- 投稿や写真での位置情報の設定
- 自分や家族や被災者のプライバシー(家族構成・顔写真など)
- SNSでのDMの受付範囲の設定

被災した人 被

支援する人 支

つながる共助では被災した人と支援する人それぞれの目線で有効な内容にマークをつけています。

© FUKKO DESIGN JVOAD 協力：荒木健太郎（雲研究者）、佐々木晶二（元内閣府防災官房審議官）

災害時の助け合い

仲間とつながって支え合おう

SNSでつながる
防災アクション
ガイド

つながる共助

信頼できる仲間をつなろう

復旧作業は気が遠くなる大変な作業です。仲間を頼り、みんなで一緒に進めましょう

SNSグループをつくる 被 支

困りごとを伝えるFacebookやLINEのグループをつくりましょう。関係者だけの限定公開にもできます。既存グループの活用もひとつの方法です。

状況を伝え合おう 被 支

被害の状況を正確にまとめておく、仲間の輪を広げたり、今後行政からの支援を受けたりするのに有効です。グループ内で進捗を随時公開しておくより効率的。

被災したからといって我慢する必要はありません 被

生活の再建時は、周りの目を気にして食事や物資などを最低限にしがちです。しかし、心のゆとりは大切です。食べたいものや欲しいものなど、我慢をしなくていいです。

被災した人 被

支援する人 支

モノの支援をしてもらおう

もしもモノに困ったらSNSやグループに投稿して支援を募りましょう

必要なモノを募集 被

必要なモノはAmazonの「ほしい物リスト」で発信すると便利。リスト作成時に個人情報の公開範囲も設定できます。

Amazon ほしい物リスト

Amazonの商品をリストにして共有し、支援したい人から買ってもらえます。必要な個数を管理できて便利。

募集があったら支援 支

相手の意向をまず確認。募集を見つけてから支援を。支援したい人に募集を呼びかけましょう。行政やNPOなどのサイトにある支援情報の紹介もチェック。

まずは物流状況の確認を 支

インフラの被害でモノを届けられないことも。物流状況を確認し難ければお金の支援も検討しましょう。

© FUKKO DESIGN JVOAD 協力：荒木健太郎（雲研究者）、佐々木晶二（元内閣府防災官房審議官）

災害時の助け合い

復旧作業とお金の助け合い

復旧作業や生活再建には助け合いが必要不可欠です。SNSや送金サービスを手早く活用して、作業やお金について助け合いましょう。

みんなで協力して復旧作業を

家族だけでは復旧作業に限界があるため
仲間同士で助け合って作業しましょう

仲間をSNSなどで募集

作業を手伝ってくれる仲間をSNSやLINEグループで募集しましょう。発信するときはチェックリストの項目を確認。

チェックリスト

<input type="checkbox"/> 内容	<input type="checkbox"/> 連絡先	<input type="checkbox"/> 必要人数
<input type="checkbox"/> 場所	<input type="checkbox"/> 日時	<input type="checkbox"/> 現場写真

ボランティアマッチングサービス「スケッチ」

気軽にボランティアを募集できるサービスです。SNS連携もできます。

お金の困ったら...

生活の再建にはお金が必要です。行政の補助金などでは足りない場合、送金サービスなどを活用しましょう

キャッシュレス決済サービスを使う

PayPayやLINE Payのキャッシュレス決済サービスはアカウントがあれば手数料無料ですぐに支援してもらえます。

クラウドファンディングでの支援も

Readyfor, Makuake, Good Morningなどのサービスが有効。立ち上げサポートのサービスも。手数料は10~20%程度。

サービス利用が厳しいとき
口座情報を公開して支援を受けることもできます。ただし個人情報に注意。

支援する時は「まずはひと呼吸」

支援するときは被災地に配慮した発信や行動を。善意でも被災地の状況を知らずに発信したり、物資の送付や現地への押しかけは迷惑になることも。公的機関の情報も確認して、必要な支援をしましょう。

© FUKKO DESIGN JV OAD 協力：荒木健太郎（雲研究者）、佐々木晶二（元内閣防災官房審議官）

災害時の助け合い

困っている人とつながろう

妊婦、外国人、高齢者、障がい者など、様々なことで困っている人たちがいます。特に災害時には困っている人のマークに注目し、近くに困っている人がいたら積極的に声をかけてつながりましょう。

困っている人のマーク

ヘルプマーク
外見ではわかりませんが、周囲の人に配慮を必要としていることを知らせるマーク。

身体障がい者標識
肢体不自由であることを理由に免許に条件を付されている方が運転する車に表示するマーク。

マタニティマーク
母子と非常にデリケートな状況にある妊娠中のお母さんが所持しているマーク。

聴覚障がい者標識
聴覚障がいであることを理由に免許に条件を付されている方が運転する車に表示するマーク。

耳マーク
聴覚に障がいがあることを示し、コミュニケーション方法に配慮を求める場合などに使用されているマーク。

ハート・プラスマーク
心臓、呼吸機能、腎臓、膀胱・直腸、小腸、肝臓、免疫機能など外見からはわかりにくい「身体内部に障がいがある人」を表すマーク。

手話マーク
耳の聞こえない人が手話でのコミュニケーションの配慮を求めるときに提示したり手話対応可能な施設に掲示できるマーク。

白杖SOSシグナル
「白杖SOSシグナル」運動のマーク。視覚に障がいのある人が白杖を頭上50cm程度に掲げていたら、SOSのサインです。

筆談マーク
耳の聞こえない人、音声言語障がい者、知的障がい者や外国人などが筆談でのコミュニケーションの配慮を求めるときに提示したり筆談対応可能な施設に掲示できるマーク。

防災バックにもマークをつけよう

被災するといつにも以上に他人からの配慮が少なくなります。被災した際に配慮してもらえよう、普段から余分にマークをもらって防災バックなどに付けておきましょう。

障がいなどに対応する施設のマーク

困っている人を助けるために
このマークのついている施設を活用しよう

障がい者のための国際シンボルマーク
障がいのある方が利用しやすい建築物や公共交通機関であることを示す、世界共通のマーク。

盲人のための国際シンボルマーク
視覚障がい者の安全やバリアフリーに考慮された建物・設備・機器などに付けられている。

ほじょ犬マーク
身体障害者補助犬法に基づき認定された補助犬（盲導犬・介助犬・聴導犬）を受け入れる店の入口などに貼るマーク。

オストメイトマーク
オストメイト（人工肛門・人工膀胱を造設した方）対応のトイレなどの設備があることを示すマーク。

出典：内閣府、東京防災

© FUKKO DESIGN JV OAD 協力：荒木健太郎（雲研究者）、佐々木晶二（元内閣防災官房審議官）

【プロジェクトリーダー TBWA\HAKUHODO 兼 FUKKO DESIGN 木村充慶 コメント】



本ガイドの制作期間は約7ヶ月と、今までで最長となりました。これまで、SNS向けに発信する災害対策集として「防災アクションガイド」を作ってきましたが、その中でSNSなど新しいサービスを活用する必要性を強く感じました。その思いをメンバーとともに話し合いながら、長い時間をかけてまとめました。自然災害だけでなく、火災被害など様々なケースで実際に被災された方が活用できた方法を参考にし、実践的な内容にしました。いざ被災すると、なかなか新しいことはしづらいかもありませんが、SNSなど新しいサービスを使うからこそ、よりよい支援を受けられる可能性があります。被災した経験がある方も、ない方もぜひ一度見てみてください。多くの方に利用されることを願っています。

プロジェクトメンバー

プロジェクトリーダー：木村充慶（TBWA\HAKUHODO／一般社団法人 FUKKO DESIGN）

アートディレクター：伊藤裕平（TBWA\HAKUHODO）

デザイナー：神之田裕貴（TBWA\HAKUHODO）

コピーライター：徳岡淳司（TBWA\HAKUHODO）

専門家：佐々木晶二（元内閣防災官房審議官）、明城哲也（NPO 法人全国災害ボランティアネットワーク<以下、JVOAD>事務局長）など

TBWA\HAKUHODO（TBWA 博報堂）について

2006年に博報堂、TBWA ワールドワイドのジョイントベンチャーとして設立された総合広告会社です。博報堂のフィロソフィーである「生活者発想」「パートナー主義」とTBWAがグローバル市場で駆使してきた「DISRUPTION®」メソッドを中心とした独自のノウハウを融合。質の高いソリューションを創造し、クライアントのビジネスの成長に貢献します。「DISRUPTION®」は既成概念に縛られず、常識を壊し、新しいヴィジョンを見いだすTBWA\HAKUHODOの哲学です。マーケティングに限らず、ビジネスにおけるすべての局面でディスラプションという新しい視点を武器に事業やブランドを進化させるアイデアを生み出します。<https://www.tbwahakuhodo.co.jp>

FUKKO DESIGN について

一般社団法人 FUKKO DESIGN は、「民間ビジネスの力を結集して新たな“復興”をつくる」を活動テーマに、平時のときから行政、民間企業、メディアとのネットワークを構築し、有事の時にすぐにサポートする体制をつくるほか、有事の際の被災地に関する情報発信の支援、復興タイミングにおける地域の魅力発信、企業のマッチングサポート支援などをトータルにデザインしていく団体として活動していきます。<https://fukko-design.jp/>